

## 2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年7月30日

上場会社名 J B C Cホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9889 URL <https://www.jbcchd.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東上 征司  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理担当 (氏名) 浅利 信治 TEL 03-6262-5733  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	18,361	1.3	1,783	16.1	1,888	13.9	1,260	12.6
2025年3月期第1四半期	18,118	10.7	1,536	34.9	1,658	34.7	1,120	31.7

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 1,350百万円 (9.7%) 2025年3月期第1四半期 1,231百万円 (30.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	20.28	—
2025年3月期第1四半期	18.08	—

(注) 2025年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。したがって、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	43,391	24,346	56.1
2025年3月期	44,466	24,182	54.4

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 24,346百万円 2025年3月期 24,182百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	53.00	—	81.00	134.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	17.00	—	18.00	35.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2025年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。したがって、2025年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	35,750	△0.2	3,400	6.8	3,450	3.9	2,400	4.0	38.60
通期	71,500	2.3	6,800	10.5	6,900	9.3	4,800	4.3	77.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期1Q	71,094,972株	2025年3月期	71,094,972株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	8,858,614株	2025年3月期	8,952,988株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期1Q	62,169,275株	2025年3月期1Q	61,933,612株

- (注) 1. 「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship)」により「JBCCGグループ社員持株会専用信託口」が保有する当社株式を、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております(2025年3月期1Q 0株、2026年3月期1Q 2,361,934株)。
2. 2025年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。したがって、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」および「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(補足資料について)

決算補足資料は、T D n e t への登録および当社ウェブサイト同日掲載しています。

- ◆第1四半期決算補足資料はこちら [https://www.jbcchd.co.jp/r/financialresults/26\\_03\\_1q/](https://www.jbcchd.co.jp/r/financialresults/26_03_1q/)
- ◆I R 資料室はこちら <https://www.jbcchd.co.jp/ir/library/presentation/>

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状況の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループは、中期経営計画「CHALLENGE 2026」（2025年3月期～2027年3月期）の2年目に入りました。業績は好調に推移しており、上方修正後の中期経営計画目標に対して、計画通りに進捗しています。特に、注力事業であるクラウド、セキュリティ、超高速開発の3分野が着実に成長し、業績を力強く牽引しています。

中期経営計画「CHALLENGE 2026」では、継続的な成長を実現し成長路線を確実なものとするため、注力事業であるクラウド、セキュリティ、超高速開発にグループ全体の経営資源を集中して事業を推進しています。国内の中堅・大手企業（年商500億円～2,000億円）をメインターゲットに定め、企業が抱えるIT人材不足やコスト意識の高まりに応えるマネージドサービスの提供や、高度化・複雑化するサイバー攻撃に備えるセキュリティ対策サービスを展開しています。マルチクラウドとその運用に不可欠なセキュリティの包括的な提案の推進により、案件の大型化と受注拡大につながり、クラウド、セキュリティのビジネスが堅調に拡大しました（クラウド、セキュリティの売上高 前年同期比36.6%増）。また、お客様の基幹システムをアジャイル型で開発する超高速開発についても、大型プロジェクトの安定化に向けた取り組みにより、業績が正常化しました（超高速開発の売上高 前年同期比57.1%増）。

この結果、当第1四半期の連結業績は、売上高18,361百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益1,783百万円（同16.1%増）、経常利益1,888百万円（同13.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,260百万円（同12.6%増）となりました。

2026年3月期は、4期連続増収増益および5期連続増配を見込んでおり、引き続き着実な成長と、安定的かつ柔軟な株主還元の実現に取り組んでまいります。

当四半期における事業分野別の概況は、以下の通りです。

(単位：百万円)

			2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比
情報ソリューション	システム開発 (SI)	売上高	3,941	4,900	+24.3%
		売上総利益	1,039	1,949	+87.7%
		%	26.4%	39.8%	
	サービス	売上高	9,500	10,248	+7.9%
	売上総利益	2,746	3,221	+17.3%	
	%	28.9%	31.4%		
	システム	売上高	4,205	2,614	△37.8%
	売上総利益	953	545	△42.7%	
	%	22.7%	20.9%		
	合計	売上高	17,647	17,762	+0.7%
	売上総利益	4,738	5,717	+20.7%	
	%	26.9%	32.2%		
製品開発製造		売上高	470	598	+27.0%
		売上総利益	320	293	△8.4%
		%	68.1%	49.1%	
合計		売上高	18,118	18,361	+1.3%
		売上総利益	5,059	6,011	+18.8%
		%	27.9%	32.7%	

#### <Topics: 超高速開発のお客様事例>

サクラクレパス、40年ぶりに基幹システムをアジャイル開発で刷新(7月発表)

<https://www.jbcchd.co.jp/news/2025/07/23/110000.html>

大阪・関西万博へのアクセス、Osaka Metro全路線の列車混雑をAI予測(7月発表)

<https://www.jbcchd.co.jp/news/2025/07/24/140000.html>

## 【情報ソリューション】

情報ソリューション分野は、システム開発（SI）、サービス、システムの3つに分類し、注力事業であるクラウド、セキュリティ、超高速開発を中心にビジネスを展開しています。

### ・システム開発（SI）

超高速開発については、前期（2025年3月期）第4四半期以降、大型プロジェクトが順調に進捗したことで、業績が正常化し、当四半期もその流れを継続しています。さらに、複数のプロジェクトで売上・利益の比重が最も高い開発フェーズの完了が集中し、当四半期のシステム開発の売上総利益に大きく寄与しました。通期では、期初計画通りの着地を見込んでおり、進行中の約20件の基幹システム開発プロジェクトを引き続き注視しながら、完遂に向けてリソースを集中して対応してまいります。

また、システム開発におけるAI活用を積極的に推進すべく検証を進めており、当四半期に実施したプロジェクトでは、AIエージェントによるAPI開発を試行し、開発工数を削減する一定の成果を得ました。今後もAI技術を積極的に取り入れ、品質と生産性のさらなる向上を図ってまいります。

### ・サービス

クラウドについては、運用およびコスト最適化機能を備えたクラウドサービス「EcoOne」が、既存のインフラ投資額と比較して平均30%のコスト削減を可能にする点が評価され、引き続き好調を維持しています。企業のオンプレミス環境で広く利用されているVMware製品（仮想化ソフトウェア）の度重なる価格改定やライセンス体系の変更が、お客様のIT環境のクラウド移行（クラウドリフト）を後押しする要因となっています。加えて、当社が提供するセキュリティ対策を含むマルチクラウド環境における提案力がお客様に評価され、大型案件の受注につながりました（新規月額受注高 前年同期比13.3%増）。

SaaS分野においては、「Microsoft 365」に加え、サイボウズ社のノーコード開発ツール「kintone」、オンラインストレージ「Dropbox」等の3サービスをSaaSビジネスの基軸とし、ワークショップ等の各種施策と併せてお客様のクラウドの利活用・定着を推進してまいります。

- 新国立劇場、オンプレシステムを Microsoft クラウドへ移行・刷新し35%コスト削減

J B C Cがクラウド&セキュリティの最適化にトータルで伴走（4月発表）

<https://www.jbcchd.co.jp/news/2025/04/24/110000.html>

- 北陸電力株式会社 様、年間1万5千時間以上の業務時間削減！ kintone導入で全社員をDX人材へ（4月発表）

<https://www.jbcchd.co.jp/news/2025/04/10/130000.html>

セキュリティについては、中堅・大手企業を対象に、グループ企業や海外拠点を含めたセキュリティ診断を実施する「Attack Surface診断サービス」や、社内外のIT資産の脆弱性を検知・診断する「脆弱性マネジメントサービス」の提供を通じて、複数の大型案件の受注につながりました（新規月額受注高 前年同期比19.2%増）。

生成AIの活用が日本国内でも急速に広がる中、新たな情報漏洩リスクへの懸念が増し、企業のセキュリティ対策への関心が高まっています。当社では高付加価値サービスの提供を通じて、受注規模拡大を目指してまいります。

- J B C C、マルチクラウド対応のIaaSセキュリティ監査サービスを提供開始（3月発表）

<https://www.jbcchd.co.jp/news/2025/03/27/110000.html>

なお、サービス分野においても、レポート自動生成やログデータの解析などにAI技術を取り入れ、品質と生産性のさらなる向上を図ってまいります。

### ・システム

ハードウェアおよびソフトウェアの販売を行っており、クラウド移行の進展に伴い中長期的に縮小傾向にあります。一方、日本国内ではメインフレームを利用する企業に対して、モダナイゼーションの一定の需要が継続しています。当社グループでは、モダナイゼーションの推進により、ハードウェア販売が一時的に増加し、業績の上振れ要因となる可能性があります。なお、当四半期は計画通りの減収減益となりました。

## 【製品開発製造】

製品開発製造は、当社グループ独自のソフトウェアやクラウドサービスの開発、プリンターなどの情報機器の開発・製造を行っております。ソフトウェア分野では、オリジナルソフトウェアのストック化を推進し、パッケージ販売から切り替えを進めております。また、ハードウェア分野では、プリンターサポート終了による入れ替え需要が重なり、収益性の低いプリンター販売が一時的に増加し、当四半期は増収減益となりました。

## (2) 当四半期の財政状況の概況

## (資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,075百万円減少し、43,391百万円となりました。これは主に現金及び預金が924百万円減少、受取手形、売掛金及び契約資産が728百万円減少した一方、流動資産のうちその他に含まれている前払費用が460百万円増加したことによるものです。

## (負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,239百万円減少し、19,045百万円となりました。これは主に未払費用が2,208百万円減少した一方、流動負債のうちその他に含まれている預り金が1,061百万円増加したことによるものです。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ164百万円増加し、24,346百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益により1,260百万円増加、その他有価証券評価差額金が104百万円増加した一方、配当金の支払いにより1,306百万円減少したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期通期の連結業績予想につきましては、2025年5月12日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,784	16,860
受取手形、売掛金及び契約資産	14,016	13,287
商品及び製品	1,503	1,386
原材料及び貯蔵品	303	285
その他	4,018	4,651
貸倒引当金	△93	△96
流動資産合計	37,532	36,374
固定資産		
有形固定資産	1,691	1,690
無形固定資産	330	318
投資その他の資産		
投資有価証券	2,226	2,390
その他	2,711	2,646
貸倒引当金	△26	△28
投資その他の資産合計	4,912	5,008
固定資産合計	6,934	7,017
資産合計	44,466	43,391
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,285	4,978
未払費用	4,334	2,125
未払法人税等	1,386	612
受注損失引当金	1	7
訴訟損失引当金	79	79
その他	5,465	7,361
流動負債合計	16,551	15,163
固定負債		
長期借入金	2,588	2,588
退職給付に係る負債	7	6
資産除去債務	791	890
インセンティブ引当金	165	206
その他	181	191
固定負債合計	3,733	3,881
負債合計	20,284	19,045
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,713	4,713
資本剰余金	6,869	6,869
利益剰余金	16,977	16,942
自己株式	△5,075	△4,966
株主資本合計	23,484	23,558
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	705	809
為替換算調整勘定	△3	△19
退職給付に係る調整累計額	△3	△2
その他の包括利益累計額合計	697	787
純資産合計	24,182	24,346
負債純資産合計	44,466	43,391

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	18,118	18,361
売上原価	13,059	12,349
売上総利益	5,059	6,011
販売費及び一般管理費	3,522	4,227
営業利益	1,536	1,783
営業外収益		
受取配当金	33	26
受取保険料	77	91
その他	33	9
営業外収益合計	144	128
営業外費用		
支払利息	3	3
貸倒引当金繰入額	14	6
その他	4	14
営業外費用合計	22	23
経常利益	1,658	1,888
税金等調整前四半期純利益	1,658	1,888
法人税等	538	627
四半期純利益	1,120	1,260
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,120	1,260

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	1,120	1,260
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	115	104
為替換算調整勘定	△4	△15
退職給付に係る調整額	△0	0
その他の包括利益合計	111	89
四半期包括利益	1,231	1,350
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,231	1,350

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算は、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）、及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	83百万円	152百万円
のれんの償却額	8	—

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報ソリューション	製品開発製造	計		
主要な財又はサービス					
S I	3,941	—	3,941	—	3,941
サービス	9,500	—	9,500	—	9,500
システム	4,205	—	4,205	—	4,205
製品開発製造	—	470	470	—	470
売上高合計	17,647	470	18,118	—	18,118
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	17,647	470	18,118	—	18,118
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	17,647	470	18,118	—	18,118
セグメント間の内部 売上高又は振替高	37	146	184	△184	—
計	17,685	617	18,302	△184	18,118
セグメント利益	1,836	29	1,866	△329	1,536

(注) 1. セグメント利益の調整額△329百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△329百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 主要な財又はサービスの内容は下記の通りです。

S I…当社グループ独自の開発手法「JBアジャイル」を取り入れた超高速開発を中心としたシステム開発

サービス…クラウドやセキュリティサービスを中心としたITシステムの構築・運用・保守サービス

システム…ハードウェア及びソフトウェアの販売

製品開発製造…クラウド連携プラットフォーム等、独自のソフトウェアや生産管理システムの開発・提供及

びプリンター等各種ハードウェアの製造・販売

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ. 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	情報ソリューション	製品開発製造	計		
主要な財又はサービス					
S I	4,900	—	4,900	—	4,900
サービス	10,248	—	10,248	—	10,248
システム	2,614	—	2,614	—	2,614
製品開発製造	—	598	598	—	598
売上高合計	17,762	598	18,361	—	18,361
売上高					
顧客との契約から生 じる収益	17,762	598	18,361	—	18,361
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	17,762	598	18,361	—	18,361
セグメント間の内部 売上高又は振替高	42	10	53	△53	—
計	17,805	608	18,414	△53	18,361
セグメント利益	2,205	40	2,245	△461	1,783

(注) 1. セグメント利益の調整額△461百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△461百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 主要な財又はサービスの内容は下記の通りです。

S I…当社グループ独自の開発手法「JBアジャイル」を取り入れた超高速開発を中心としたシステム開発  
 サービス…クラウドやセキュリティサービスを中心としたITシステムの構築・運用・保守サービス  
 システム…ハードウェア及びソフトウェアの販売  
 製品開発製造…クラウド連携プラットフォーム等、独自のソフトウェアや生産管理システムの開発・提供及びプリンター等各種ハードウェアの製造・販売

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。